

鳥取県経済同友会東部地区新年例会（'16. 1. 18）

平井伸治鳥取県知事 講演 メモ

MEMO:Hironori.Aimi

テーマ：「とっとり元気づくり展開の年へ」

1 はじめに経済情勢

株価が年初から下げ続けているが、今日も 17000 円を割り込んでおり、この背景には中国経済の減速と原油安が進んでいるからといわれている。

地方経済においては消費が伸び悩んでおり、アベノミクスへの信頼が揺らいでいる。

しかし、国もそういっていてもはじまらないところであり、いろんな方に聞いても日本の底力は捨てたものではない。設備投資にしてもそうだがいろんな経済指標はそんなには悪くない。雇用面の統計を見てもたしかに鳥取県は有効求人倍率は 1. 21 倍まで伸びてきており、かつてないほど良くなってきている。正職員も 0. 75 倍といった過去最高まできている。

ですからファンダメンタルズがどこまで悪くなっているのか誰にもわからない。大事なことは各企業さんがチャレンジし、そのチャレンジの末に地域がよくなっていくことだと思う。

2 正月に賑わったところ

年末年始、県内各地が賑わった。

鳥取砂丘 対前年 62%増 「すなば珈琲」は「スタバ」よりも賑わった。

ツイッターの中には「すなば」の客席がなくいっぱいのため「スタバ」に流れたとの記載もあった。

3 世界に広がる TOTTORI

新たな定期航路（香港）、クルーズ客船増

香港便ですが週 2 便をスタート時点では考えて交渉を進めていくが、香港政府とのやりとりでの課題も多く、今月末が山場になる。

4 世界ジオパークについて

ジオパークは昨年 11 月に世界遺産と同格の「ユネスコのジオパーク」に格上げされた。

あまり公表されていないが、これはユネスコの総会が行われていた時にパリでのテロ事件が起きており、正式発表をユネスコが控えたからです。機会をとらえて、兵庫県と一緒に東京での PR 活動を展開していく。

また、全国ロングトレイルフォーラムの誘致にエントリーする。関係者との話し合いの結果、了解がとれそうであり、今年全国大会が開催できる可能性がある。

ジオパークの活動拠点である山陰海岸学習館は教育委員会の所管であるが、知事部局に移すこと、岩美町と一緒に、一帯のゾーニングをして、全国大会に備えていく。

5 トワイライトエクスプレス「瑞風」

楽しみなことはトワイライトエクスプレス「瑞風」のこと、29年春デビューするが、東浜と鳥取に停車して立ち寄り観光してもらおう。なぜ「東浜」なのか。松岡支社長とも話をするが、東浜の駅は昔「貨物」が泊まっていたこともあって、非常にホームが長い。しかも駅から歩いて10分で海岸に着く。そういう特殊な駅でそこにJRさんが目をつけられた。このルート上で列車を降りて、ゆっくり食事がする場所が「東浜」だったからです。

しっかりとお客に満足して頂くためには、この地の環境整備が必要となる。そのためには「保育園など」の改装プロジェクトを立ち上げる。

JRも社運をかけているプロジェクトなので各種デザインなど決められてくる。県も改装支援したり、立ち上げプログラムに参画していく。

6 第27回日本パラ陸上競技選手権大会、第23回 BeSeTo 演劇祭 2016

日本パラ陸上はリオのオリンピック日本代表選考を兼ねている。今年の4月29日～5月1日までコカコーラ・ウェストパークで行う。リオの選手選考を兼ねているので注目度も高く、競技数も多く、是非成功させたい。

また、BeSeTo 演劇祭を鳥取でやろうということになった。

これは鳥の劇場の中嶋諒人（なかしま まこと）が日本ベント委員会の会長であり、いつもは東京でやっていたのを地方初開催で鳥取で行うことになった。

Beは北京、Seはソウル、Toは東京ではなく、鳥取にしようとした。そうしたら、富山もToなので、富山でも、また新潟からも声があがった。日本海シリーズでやることになった。

7 経済同友会のこと

鳥取県経済同友会は50年の歩みを重ねられました。いつの時代を先取りした数々の提言をいただきまし、行動も起こして頂いた。たとえば、西日本経済同友会での活動、環日本海圏の構想をしていくときも、その役割を果たしていただきました。また、さきほど米原代表幹事も先ほどのお話にもありましたが、例えば因幡元気大賞ではひよこカンパニーの小原利一郎氏が選ばれたこと。大学とタイアップして大学生との懇談会でも大学生の意見を吸い上げてもらった。いろいろアクティブに動いて頂いておられ、感謝申し上げます。

また、大丸の屋上を芝生の庭にするというプランでも協力いただいている。経済同友会は今後も地域の課題解決に向けてなお一層のご助力をいただきたい。

8 国の経済政策の方向性

1億総活躍社会の形成、新3本の矢を柱とするものですが、目標はGDP600兆円ということになっている。これを達成するためには相当の馬力がいるのであり、補正予算を組むことになった。20日を目指して成立する見込みである。補正予算額は3.5兆円でありその果実が地元の人にも回るように努力したい。投資促進や生産性革命2400億円、地方創生加速化交付金1000億円が柱であるが、災害復旧に2兆円がある。これは主に昨年の鬼怒川大洪水の普及に充てるものであるが、岩美道路も津波対策として使えそうな

ので国に要求している。2月1日から使えるので頑張るとってくる。また、28年度当初予算は総額96.7兆円であり過去最高となっており、その中で中小企業関連予算として約1000億円、中小企業者向けのワンストップサービスの相談窓口「よろず支援拠点」の機能拡充、税制改正として、消費税の軽減税率制度、企業の投資拡大のための法人税率引き下げが入っている。

9 元気づくり総合戦略

鳥取県の総合戦略、目標は13ある消滅地方都市をゼロに！ということである。これで市町村とタイアップしていく。鳥取県の人口であるが、2015年10月の推計で57万4千人である。人口減少率は2010年比でマイナス2.55%であり、国の推計のマイナス3.65%を上回っている。これをベースとして、自然の豊かさだと人の絆を活かして地方創生に力を注いでいく。

【日本財団と連携したチャレンジ】

日本財団との連携で30億円というお金が回ってくる。「日本一のボランティア先進県」の実現プロジェクト、3分野9プロジェクトを推進することになった。高齢者にやさしいまちを作ろうということで、たとえば、日本一の障害者スポーツの拠点、ユニバーサルデザインのタクシー、これは、車いすを後ろに積むことができるもので200台の寄付をしましょうというもの。

このことは、鳥取県が手話条例を初めて作ったことや人口が一番少ない県で30億円の寄付がもっとも効率がいいからである。経済界にとっては、海外視察や人材育成にも支援するということで、地方創生をまるごと応援しようというプロジェクトである。

いずれ財団の方も鳥取県に住みついて支援していくことになると思う。

【県民総参加による鳥取県の元気づくり】

「住んで、訪れて良かったと誇れる鳥取県」を目指して、県民総参加で地方創生のムーブメントを起こしていく。

【増加する外国人観光客】

国際チャーター便や大型クルーズ船の誘致活動により、うなぎのぼりに増加。

年間8万人と目標を改めた。背景には飛行機や船、海外のプロモーションが成功したから。

【鳥取砂丘コナン空港について】

昨年末に中国のインターネット放送局が取材に訪れ、WEBで放送された。たしか16位から17位くらいで注目されており、鳥取砂丘コナン空港が有名になっている。

この3月11日と14日の2日間台北、台中からチャーター便がやってきて、ツアー客の一部が鳥取マラソン2016に参加する。

【DMOによる世界に通用する観光地づくり】

鳥取版のDMOを経済界と一緒に立ち上げていきたい。東中西にそれぞれ。

鳥根県知事とも話ができており、各組織の主要な方に集まっていただき、広域の山陰版

DMO を設立したい。さきほど、会を抜け出してここに来たのですが、中部の DMO、鳥取中部観光推進機構が本日立ち上がりました。中部の DMO は蒜山（真庭市）の副市長にも来ていただいております、あちらは、旅行業者が許可をとってやるということで決まりました。

【東部の DMO】

東部の DMO が立ち上がって、鳥取市観光コンベンション協会が「第 3 種旅行業」に登録した場合、旅行業法によって、兵庫県北部（香美町など）が範囲に入らない。このことから、DMO 旅行業の要件緩和を国（観光庁長官）へ要望していく。

【次世代エネルギーの推進、水素エネルギー実証拠点整備】

メタンハイドレートのこと、技術研究が国の予算で認められた。鳥取港の「海遊館」にその研究拠点を設置するが、全国で唯一の拠点となる。鳥取大学の大学院でも講座が設置されるが、これも全国で唯一の専門講座となる。先生方は専門家でおしゃべりはされませんが、本当に鳥取沖にけっこうあるのです。また、バイオマス発電も来年早々に県内 2 カ所ではじまる。水素エネルギー実証実験ですが、少し前に報道されましたが、ホンダ、積水ハウス、鳥取ガスの三社で、実証実験を始める。家と車と一緒にやるのは新たな取り組みとなる。

【経済雇用指標の状況】

県内の有効求人倍率は昨年 11 月に 1.21 倍となった。平成 26 年 12 月に 16 年 10 カ月ぶりに 1.0 倍を超えたが、リーマンショック以来ずーと全国に後れをとってきたが、やっと全国レベル、背中が見えてきた。

【中小企業を取り巻く環境、TPP 関連】

関税が TPP 推進により、99.9% の品目で撤廃になり、中小企業（製造業）には有利に働く。自動車部品製造、家電・産業用機械・化学では 99.9% が即時撤廃。

アシックスの工場（境港市）が新しいタイプの工場となる。フットウェア製品も TPP により関税が 0 になる。

【正規雇用 1 万人達成に向けた取組】

若者が定着し、すべての県民が活躍できる社会を実現を目指して、4 年間で正規雇用 1 万人達成にチャレンジしていく。キャリアアップを図り、有期契約社員を正規雇用した場合 50 万円助成する。

【戦略的な企業立地の促進】

㈱イナテック（本社：愛知県）＜アイシンググループへの自動車部品の供給＞、今村航空機器工業㈱（本社：岐阜県）＜航空機大手サプライヤーへの部品供給＞これらの企業のみならず、周辺企業をセットで誘致活動をやっていく。

【中小企業経営革新、創業チャレンジを強力支援、事業承継支援体制の整備】

経営革新

平成 24 年度から開始しているが、4 年間で 601 件設備投資、雇用は 611 人、これは大型誘致件数に匹敵する。平成 28 年度からは更なる県内企業への浸透を図る。今後 4

年間で1200件以上の計画策定。

創業チャレンジ

5月からスタート。新制度として、借入資金の利子3年間を無利子化する。

事業承継支援制度

事業引き継ぎ支援センターの設置（H27年5月）、すでに36件の相談がきている。

【政府機関移転の提案】

職業能力開発総合大学校（東京都小平市）の移転

シンクタンク機能の一部移転を目指す。実現の方向で協議開始。

3月に決定されるが、平成30年の開設を目指している。

【高度人材の育成、とっとりプロフェッショナル人材確保、IJU ターンの促進、人材育成基金など】

- ・成長3分野（自動車、航空機、医療機器）のグローバル人材育成、マッチング
- ・プロフェッショナル人材戦略拠点（県経営者協会委託）、マネージャー配置
- ・若者の県内就職（IJU ターン）促進……インターンシップ 909名上半期試算
- ・鳥取県未来人材育成基金……県内就職支援、製造業、IT 企業、薬剤師

【新規就農者の総合支援、食のみやこ戦略、中小企業の東南アジア展開支援、境港ハブ化】

- ・新規就農者確保……年間200人
- ・県産品のブランディング戦略、6次産業化の推進
- ・東南アジア展開……香港、タイ、マレーシアなど重要課題、シンガポール観光業者来県
- ・境港……上海航路 これまで11日間かかっていたが4日間に短縮、活用して欲しい。

【高速道路網の整備】

- ・山陰近畿自動車道はこの3月までに浦富 IC まで開通する。ジオパークまでの大きな動脈が完成する。
- ・鳥取西道路についてはほぼ予定通り進捗しており、平成29年度開通も夢ではない。

【女性活躍社会の実現、ワークライフバランス、出会いの場創出、子育て王国とっとり、あいサポート運動、障がい者就業支援】

- ・女性活躍社会……従業員10名以上の企業 25%を係長以上に
- ・ワーク・ライフ・バランス…新しいワーク・ライフ・バランス イクボスの普及
- ・出会いの場創出……とっとり出会いサポートセンター「えんトリー」設置
- ・子育て王国……鳥取県が先進的に取り組んできた。なお一層前進させる。
- ・あいサポート運動、障がい者就業支援……県内企業の理解を得て推進している

【移住定住、生涯活躍のまち（CCRC）による移住定住】

- ・平成27年から平成31年度まで IJU ターン 6000人確保目標
- ・日本版 CCRC……県内2カ所予定（モデルプラン策定、南部町、湯梨浜町）

【経済界との連携】

- ・「来んさいな住んでみないやとっとり」県民会議行動宣言 承認
- ・産学官金労言の連携強化
- ・「移住応援パスポート」の制度構築

この前の座談会において、米原代表幹事から提案された。良い事なので、早速検討。
自動車学校、運送業の人などいろいろな方と下話をしており、当初予算に織り込む。
移住者にもメリット、お金を稼ぐ手段として有効。経済界とウィン・ウィンできる。

【小さな拠点整備】

- ・中山間集落の暮らしを確保
- ・岩美町の「きなんせ岩美」のような拠点整備の推進

【補正・当初予算での産業支援策】

- ・TPP を見据えた海外展開支援……アドバイザー派遣
- ・戦略的企業立地の推進など

【リオ・オリンピックの県内選手、2020年東京オリンピックに向けた芸術文化活動】

- ・リオでは県出身、アーチェリーの田中香織里選手が代表内定
- ・出場選手への支援策
- ・チーム鳥取発掘育成
- ・2020年東京オリンピックに向け、カルチュラル・オリピードとして
「障がい者の芸術文化活動推進知事連盟」の設置

13都道府県の知事で結成、政府に働きかけている。

【トヨタカラー開発 長谷川龍雄氏の言葉】

- ・新しい未来の形を地域で創っていく。そのスタートは鳥取でなければならない。
- ・興味があることは 楽しみながら 挑戦するべし」これは鳥取市出身の
トヨタ自動車の長谷川龍雄氏の言葉です。
- ・その挑戦のフロンランナーは経済同友会の皆さまでなければいけません。
一緒にやっていきたいと思います。どうぞ皆様この1年がよい年であることを
願ひまして終わりとします。